

○ 【重要】 TypeI サブシステム (FX1000) ノード割り当て方法の変更について

TypeI サブシステム (FX1000) のジョブ投入時、資源オプションのノード割り当て方法につきまして、省略時 (標準) の設定が定期保守後 (7月15日 (木) 20:00以降) から、「noncont : 離散割り当て」に変更となりました。

ジョブ投入時、資源オプション

<p>次回定期保守前 7月14日 (水) 08:00以前に投入したジョブ</p>	<p>次回定期保守後 7月15日 (木) 20:00以降に投入したジョブ</p>
<p>-L node=<shape>:[torus mesh noncount] (標準:torus)</p> <p>torus : トーラスモード (標準) mesh : メッシュモード noncont : 離散割り当て</p> <p>省略時は、torus</p>	<p>-L node=<shape>:[torus mesh noncount] (標準: noncont)</p> <p>torus : トーラスモード mesh : メッシュモード noncont : 離散割り当て (標準)</p> <p>省略時は、noncont</p>
<p>ジョブスクリプト例: トーラスモードとなります。</p> <pre>\$ cat multi-mpi.sh #!/bin/sh #----- pjsub option -----# #PJM -L rscunit=fx #PJM -L rscgrp=fx-small #PJM -L node=2x6 #PJM --mpi proc=576 #PJM -L elapse=1:00:00 #PJM -j #----- Program execution -----# mpiexec ./a.out</pre>	<p>ジョブスクリプト例: 離散割り当てとなります。</p> <pre>\$ cat multi-mpi.sh #!/bin/sh #----- pjsub option -----# #PJM -L rscunit=fx #PJM -L rscgrp=fx-small #PJM -L node=2x6 #PJM --mpi proc=576 #PJM -L elapse=1:00:00 #PJM -j #----- Program execution -----# mpiexec ./a.out</pre>

• torus

通信性能が最大化される可能性が高い

12ノード単位で割り当たる

12ノード単位で固まって確保できないと割り当てられない為、12ノード単位で切り上げでポイント消費される

- noncont

使いたいノード数分だけ割り当たるので無駄がない

ノードの割り当て条件が緩いので混雑時もジョブ待ち時間が短くなる可能性がある

※mesh や torus を指定する場合、実行したい TOFU 形状を明示する必要があります。

例： 2次元 (node=N1xN2:mesh) 3次元 (node=N1xN2xN3:torus)

※ノード割り当て方法の詳細は、HPCPortal の「マニュアル」－「利用手引き書」－「TypeI 利用手引き書」－P.51 「5.3.2. ジョブ資源オプション」を参考ください。